

中島山長圓寺

1600（慶長元）年、板倉勝重の開基に依り、中島村（現愛知県岡崎市）の永安寺を改め、中島山長圓寺と称し、仙麟長膳禅師を開山に仰ぎ、板倉一門の菩提所と定めた。板倉氏はもともと下野国（栃木県）の足利郡板倉郷だが、頼重の代に愛知県額田郡小美村に来て深溝城主松平に仕えた。

開基の板倉勝重は、好重の二男で1545年に小美村で生まれたが11才で剃髪し、中島村永安寺（その跡が現在の中島町後屋敷の田んぼの中に小さな祠として残っている）に住んだ。香誉宗哲と号し諸国を行脚し禅の修行を重ねていた。

父・好重が善明提の戦いで討死した後、長兄・忠重は病気の為、弟・定重が家督を継いでいたが、遠州の戦いで戦死したことから家系を継ぐ者がなくなった。徳川家康は板倉家の衰退を惜しみ、1577（天正5）年に、香誉宗哲と号し玉庵和尚の弟子となり中島村永安寺に住んでいた勝重を還俗させ、板倉家を継がせ50石を与えた。勝重ははじめ渋川勘平と称し、42才で板倉を名乗った。徳川幕府草創の時期、譜代の臣として活躍し、駿府・小田原・江戸町奉行から関東郡代、京都町奉行を経て初代の京都所司代を長く勤めた。

勝重の長男・重宗は、1630（寛永7）年、勝重の七回忌に際し、万燈山麓（現在地：西尾市）に長圓寺を移し、新たに禅林風伽藍を完備し、山号を万燈山と改めた。また、肖影堂を建て、父・勝重の木像を安置した。曹洞中興の祖師・月舟和尚の入山に及び、雲納多く集まり「東海の法窟」といわれたようである。

中島町町後にある中島山長圓寺跡の稲荷堂は長圓寺が管理しているようである。

「悠紀斎田中島案内」には以下のように記述されている。

町後の鎮守祠：昔永安寺境内の鎮守にして白山神を祀る板倉の守神なり。

昔の永安寺：町後にて今鎮守の遺る處なり創建詳ならず慶長元年板倉勝重開基となり長圓寺と改稱し寛永七年に今の貝吹山地に移し萬燈山長圓寺となる



永安寺跡 20150801



板倉勝重



長圓寺 20150808



勝重廟 長圓寺 20150808



板倉家代々の墓 長圓寺 20150808

本項は以下の資料を引用している

[悠紀齋田中島案内]

編集人 牧 善丸、早川 治三郎
 発行人 牧 善丸
 印刷者 中村 角馬
 発行日 1915 (大正 4) 年 6 月 5 日
 発売元 牧 つね、早川 芳太郎